

平成 16 年 3 月期 第 3 四半期業績の概要（連結）

平成 16 年 1 月 30 日

上場会社名 富山化学工業株式会社

(コード番号：4518 上場取引所 東証1部)

(URL <http://www.toyama-chemical.co.jp/>)

問合せ先 代表者 取締役 代表執行役社長 中野 克彦

責任者 執行役 経営戦略部門長兼経営企画部長 水野 淳一 (TEL：(03)5381-3837)

1. 四半期業績の概要の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近連結会計年度：無
における認識の方法との相違の有無

2. 平成 16 年 3 月期第 3 四半期業績の概況（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 12 月 31 日）

(1) 売上高 (注) 百万円未満切捨て

| | 百万円 | % |
|------------------|--------|-------|
| 16 年 3 月期第 3 四半期 | 12,607 | (-) |
| 15 年 3 月期第 3 四半期 | - | (-) |
| (参考) 15 年 3 月期 | 32,997 | |

(注) パーセント表示は、前年同四半期比増減率を示しておりますが、前年同四半期決算を行っていないため記載を省略しております。
前年同四半期については、四半期決算を行っていないため記載を省略しております。
当期より売上高のベースが変更になっております。

当社の医療用医薬品は、平成 15 年 4 月から大正富山医薬品株式会社が販売を行っております。大正富山医薬品株式会社では、当社および大正製薬株式会社の営業体制の融合化を図るために、第 1 四半期から第 2 四半期にかけ営業基盤を整備してまいりました。また、同社では、第 2 四半期に収益安定化の兆しが見えたことから、第 3 四半期より「MRの活動効率」と「製品の売上効率」の両面で「営業生産性の向上」に取り組み始めております。

第 3 四半期までにおける当社主力品については、トミロン、オゼックスが予想を下回ったものの、ペントシリンは順調に推移いたしました。また、長期育成品のルブラックおよび新製品バシルについても順調に伸びております。

当社では、大正富山医薬品への製品売上、自社開発品導出によるロイヤリティ収益、他企業へのバルク・製剤供給による収益の 3 つの収益基盤の構築を目指しており、第 4 四半期には T-3811 導出などに伴うロイヤリティ収益を予定しております。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

特にございません。

3. 平成 16 年 3 月期の連結業績予想（平成 15 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日）

| | 予想売上高 | 予想経常利益 | 予想当期利益 | 1 株当たり予想 当期純利益 |
|-----|--------|--------|--------|-------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 通 期 | 23,100 | 100 | 400 | 2 3 |

業績予想の修正は行ってございません。

以上

平成 16 年 3 月期 第 3 四半期業績概況 付帯資料

(1) 医療用医薬品等主要製品別売上高

(単位 : 百万円)

| | 16 年 3 月期 (予想) | 16 年 3 月期 第 3 四半期 |
|--------------|---------------------|----------------------|
| 医薬品 | 20,420 | 10,426 |
| ペントシリン | 3,800 | 2,777 |
| トミロン | 3,400 | 2,118 |
| オゼックス | 2,200 | 1,295 |
| ルブラック | 880 | 661 |
| パシル | 800 | 554 |
| つくしAM散 | 760 | 560 |
| CHC製品 | 250 | 159 |
| 工業薬品 | 230 | 173 |
| 単体合計 | 20,900 | 10,758 |
| 連結子会社 | 2,200 | 1,849 |
| 連結合計 | 23,100 | 12,607 |

医療用医薬品売上については、当期より大正富山医薬品(株)への供給価格によっている為、売上高の前期比較はおこなっておりません。

(2) 新製品開発状況

| 開発段階 | 開発番号 | 剤形 | 薬効 | 特徴 | 備考 |
|-------|---------------------|-----|---------------------------|--|---|
| 申請中 | T-614 | 経口剤 | 抗リウマチ剤 | 疾患修飾型抗リウマチ剤(DMARD)。炎症性サイトカイン産生の抑制作用、免疫グロブリンの産生抑制作用を有しており、関節リウマチの改善作用が期待できる。 | <国内> エーザイと共同開発 <海外：南アフリカ> Phase a 終了(自社) 韓国：東亜製薬へ導出 |
| 申請準備中 | TN-3262a | 点眼剤 | ニューキノロン系合成抗菌剤 | 経口剤「オゼックス錠」の点眼用剤として開発。2004年2Q頃申請見込み。ニューキノロン系点眼剤として初めて小児を対象とした臨床試験を実施し、有効性と安全性を確認した。また、点眼液として初めてクラミジア結膜炎(トラコーマ)の適応症を申請予定。 | ニデックと共同開発 大塚製薬と販売提携 |
| Phase | T-3811 | 経口剤 | ニュータイプ のキノロン系 合成抗菌剤 | 既存のニューキノロン剤とは異なる構造を有し、特に呼吸器感染症の多剤耐性菌を含む起炎菌に高い抗菌力を示す。また、安全性面では関節毒性が弱いことより、小児への適応の可能性も考えられる | 一般名：Garenoxacin <海外> BMS社より開発権および販売権再取得 導出交渉中 |
| Phase | | 注射剤 | | | |
| Phase | T-588 | 経口剤 | アルツハイマー型痴呆症・脳血管障害後遺症治療剤 | 神経細胞保護作用、神経突起進展促進作用を有している。アルツハイマー型痴呆症を対象とした臨床試験を実施。一方、緑内障にも有効性が期待される。 | <海外> 英：Phase a 終了 (自社) 導出検討中 |
| 非臨床試験 | T-5226 (AP-1阻害剤) | 経口剤 | 抗リウマチ剤 | 転写因子 AP-1 を阻害することより、免疫異常だけでなく、関節破壊をも抑えることができ、関節リウマチの根本治療薬として期待できる。 | 科学技術振興機構からの国内開発委託事業。自社開発 |